



2000.11.15

発行人 沼尻 執 No.1

編集人 四方 優

発行 東京都建設ボランティア協会

事務局 (財) 東京都駐車場公社内

電話 03-5381-3377

会員相互の情報交換
自由活発な意見を!

本協会の活動に弾み

会報発刊にあたり 会長 沼尻 執

一昨年初代会長の別所正彦さんから引き継ぎをうけてから一年半が過ぎ、来年には本会も五年目を迎えるうとしております。

この度、会報が発行されることとなり、会員相互の情報交換や意見を発表する機会が増し、本会の活動に弾みがつくものと期待しております。

本年は、総会前に有珠山が噴火し落ちつきをみせたと思っていたところ、今度は、足もとである伊豆諸島の三宅島で噴火が始まり、この噴火に関連して新島・神津島で震度六級を始めとした地震が群発しました。

三宅島では、いったん終息したと思われた噴火が再度活発化し、全島民が島外避難するという事態が続いております。

十月現在では、有毒ガスの発生状況を確認しながら、神津島を基地とする関係職員が日々作業に従事している状態です。

このような状況のもとで、本会としてはいかなる活動をすべきか、どのような活動が出来るか、とりあえず新島と神津島に調査員を派遣すると共に、各方面からの助言を頂きな

がら検討をすすめましたが、結果としては義援品の提供に留まるものと思われま

この間、義援金につきましては、会員の皆様のご協力により予想以上の募金が集まり、各島に応援派遣されている建設局の職員に対し、義援品を贈らせて頂きました。

九月愛知県地方で記録的な豪雨により各所で浸水被害、土砂災害が生じて間もなく先日は、鳥取県の西部で阪神・淡路大地震と同規模の地震

ボランティア団体連絡会開かれる

●本協会からも代表参加

8月24日に開かれた連絡会は、都総務局災害対策部の呼びかけで都と災害ボランティア団体との意思疎通をはかり、団体間の相互理解を深めることを目的として開かれたもの。当日の参加団体は、登録ボランティア団体として、本協会のほか7団体。

一般ボランティアとして①東京ボランティア市民活動センター、②東京災害ボランティアネットワークの2団体。都からは総務局災害対策部のほか、関係局の各部長が出席した。

会議は主催者代表・都生活文化局担当部

により大きな被害がありました。まさに天変地異の言葉のとおり、日本中のあちらこちらで災害が発生しております。

二〇〇一年の国際ボランティア年を目の前にし、本会としても突然やってくる自然災害に対し、従前の訓練、講習会などにこだわらず、広く研鑽を積み、迅速かつ的確な活動が出来よう努めてゆかなければならないと思っております。

そのためには、本会の活動内容、範囲等についても、前向きな検討、議論をお願いする次第であります。

本会報を有効に活用し、会員諸氏からも自由活発な意見を発表して頂ければ幸いです。

長の開会挨拶で始まり、議事として①平成12年度東京都総合防災訓練「ビッグレスキュー東京2000」の概要説明のほか各団体の取組状況が各代表から報告された。

本協会代表からは、設立趣旨、目的、活動状況、平常時の活動として講習会の実施「防災の日」建設局非常参集訓練、市民ボランティアと協働する河川清掃などの参加活動実績が紹介された。

このあと、出席者からの質問、意見があり、主催者まとめとして「今後防災都市東京の確立をめざし、都と災害ボランティア団体の意思疎通、相互理解を深め、災害時の連携強化につながる連絡会議を続けていきたい。」の発言があり会議を終了した。



協会金子理事より神津島出張所米沢課長へ義援品目録を贈呈

伊豆諸島の災害に学ぶ

吉田 正一

本年の七月三宅島の雄山の噴火に始まった伊豆諸島の災害は、その後新島・神津島の群発地震と続き、十月現在では、三宅島では全島民の島外避難となり、有毒ガスの発生が続くうちは、島民の帰島・施設復旧の見通しがかたない状態である。

この間、新島・神津島には協会役員として調査・派遣職員の激励に二度訪れたが、新島では島北の若郷地区を結ぶ道路の損壊、神津島では島内各所での道路の損壊、山崩れ等が発生しており、その復旧には多額の経費とかなりの時間を要するであろう。

両島の災害発生後、ボランティア協会としていかなる活動を行うべきか、どのような支援が出来るか検討を進めたが、結果としては……

三宅島噴火・神津島沖地震

復旧業務職員を激励！見舞品を贈る

協会は三宅島、神津島沖地震について理事及び有志による懇談会（八月）を開き意見交換を行い、第四回理事会（九月）で「三島の被災状況を調査し、①協会として協力できること②現地で復旧業務に従事する職員を激励するため協会員を派遣すること③協会員から募金を行い見舞品を贈る」ことを決定した。

- 一、離島という遠隔地であり、支援する協会員は、相当の日数と旅費・宿泊費がかかること。
- 二、当協会規約では伊豆諸島での活動を考えていないこと。
- 三、協会の最大目的である「行政が軌道にのる迄の緊急支援」には、時期が遅かったこと。

等から義援品の提供に終わるのではなからうか。行動する協会、支援活動にフレキシブルに対応出来る協会にするためには、普段から他のボランティアとの共働・協調を図ると共に、各個人の対応能力を高めて行かなければならない。また、活動規範についても柔軟さが求められ、砂防ボランティア制度の改革を提案して行きたい。今回の伊豆諸島の災害を教訓として実効制あるボランティア協会へ。

三宅島噴火 神津島・新島近海地震の支援募金に多数の方々のご協力を頂き大変有難うございました

6月26日に三宅島噴火、7月1日には震度6弱の神津島・新島近海地震が発生し、道路、砂防施設等公共施設に甚大な被害が発生しました。

建設防災ボランティア協会は、これらの噴火・地震被害に対し協会としての対応策を検討してきましたが、会員からの募金活動を行い島しょ職員を激励するため支援品を送ることとしました。

募金活動は、8月末から9月末日まで行い多数の会員皆様からご協力を賜り、合計134名、金額504,000円（送金手数料を除くと494,990円）の募金が集まりました。誠に有り難うございました。

また、集まりました募金の配分予算は、神津島、新島、三宅島にそれぞれ概算額10万円とし、神津島、新島については、先に支援品を購入して贈呈することにしました。

支援品の内容は建設局とも相談した結果、神津島は33インチのカラーテレビ、新島は洗濯機、乾燥機とし、資金は局幹部職員からの募金とボランティア協会の支援金とを合算して購入し贈ることとしました。

現地には、10月1日（日）～4日（水）まで貝瀬充司、小山弘光、金子義明、吉田正一の4名を派遣し、各島を訪問して被害状況の調査と支援品（贈呈品目録、果物、スタミナドリンク剤）の贈呈を行いました。また、神津島村、新島村に派遣されている局職員や、船に避難して神津島に停泊中の三宅支庁土木課職員にも、果物、スタミナドリンク剤を贈り激励してきました。

神津島・新島の被害調査及び支援品の贈呈

日程／平成12年10月1日（日）～4日（水）

（神津島に停泊中の三宅支庁職員をのせた船の前で贈呈）

- (1) 10月2日（月）
 - 大島支庁 神津島出張所 米沢彰三 課長
 - カラーテレビ（ナショナル製33インチ） 1台
 - 果物、スタミナドリンク剤 一式
 - 神津島村
 - 果物、スタミナドリンク剤
 - 三宅島支庁 土木課 中坊正義 課長
 - 果物、スタミナドリンク剤 一式
- (2) 10月3日（火）
 - 大島支庁 新島出張所 渡慶次守 課長
 - 洗濯機（ナショナル製） 1台
 - 乾燥機（ナショナル製） 1台
 - 果物、スタミナドリンク剤 一式
 - 新島村 土木課
 - 果物、スタミナドリンク剤 一式

④ 

⑤ 

|

① 

② 

③ 

※参考
 マークはトウキョウメトロポリタン・コンストラクション・ボランティア・アソシエイションのデザイン。
 東京都駐屯場公社内
 東京都建設防災ボランティア協会
 事務局 佐藤
 TEL 03-5381-0370
 FAX 03-5381-0355

ロゴマークをきめて下さい

協会のシンボルとして、会報をはじめ防災備品、共用品などに活用するロゴ・マークを制定したいと思えます。皆さんのご意見をお聞かせ下さい。(左の五つのマークデザインから一番良いと思われるものを選んでその番号を事務局までご連絡下さい)

バンコク首都圏庁で記念品の贈呈を受ける筆者



タイのバンコクで区画整理を計画しているので、短期専門家として行ってほしい旨の要請が建設省区画整理課から都OBを通じてあった。大変あわただしい中で、何とか態勢も整い、昨年9月1日より10月31日までのまる2ヶ月間、バンコク首都圏庁の都市計画局区画整理部に席を置き、ノンバモン地区(バンコクから車で40分位の田園地帯)の事業計画書作成業務を行ってきた。

バンコク首都圏庁では、土日は休日であり、私の勤務時間は早番であったため、8:00~16:00の勤務であった。なぜ早く終わるかと言うと、バンコク市内は夕方4時から6時前後は、交通大渋滞に陥るため、渋滞解消に役買っているということであった。朝の7:30にはバンコク首都圏庁の公用車が宿泊先まで迎えに来てくれ、また帰りも送ってくれた。

専門家には、ボランティア専門家としての派遣もあるが、この場合はボランティア精神に基づく個人の自由意志であるので、たとえ同等の仕事をしたとしても、国を代表して行った短期・長期専門家と待遇面で差があることを後で知った。私の場合、バンコク首都圏庁では部長クラスの待遇なため、長期滞在用アパートメントホテル20畳ほどの部屋を探しておいてくれた。セキュリティ管理費が普通のホテルより高いため、あらゆる所にガードマンがいて、サワデイカップ(男性用言葉で、こんにちは)と最敬礼をしてくれる。ちなみに女性にはこやかにサワディーカーと言う。初めのうちはちょっと気恥ずかしいものであった。

寄稿

**短期専門家としてタイ・バンコクへ
首都圏庁で区画整理事業を遂行**

庁舎のなかでは、部屋に入って来た時、エレベーターの中、廊下ですれ違った時など、満面の笑みを浮かべて会釈してくれ、思わず

うれしくなってしまう。さすが、ほほえみの国タイである。

バンコク首都圏庁都市計画局は、半数位を女性が占めており、都市計画局長と二人の代理は男性であったが、区画整理部長、次長、課長は女性であった。秘書課などは、全員が女性である。都市計画局長の送別昼食会を大ホールで催した時、初めに紹介があり、日本人3人を代表して私が、ブローキングリッシュでスピーチを行い、そして日本の詩吟、都庁ゆかりの“大田道灌蓑を借るの図に題す”を披露した。

タイへは今回で三回目になるが、初めての25年位前タイにクーデターが起こったときに較べ街中の雑踏は同じであるが、高層ビルが乱立し、建築がストップしたままになっているビルが目についた。なお車が増加したためあらゆる所にあった運河が埋め立てられ、残った運河はどぶ川となっている現状に心が痛んだ。

今までの海外経験は全て観光であり、上べの景色をみるだけで、また地元の人もただの観光客としてみているだけで、地元に一歩踏み込んだものではなかった。しかし今回は、首都圏庁の職員と意見交換しながら、仕事をやり遂げたこと、またタイ人の生活習慣、考え方など私的な付き合いを通じて、日本と違う一面も体験できたことは、貴重な糧であり、この機会を与えてくれた方々に対し、感謝している次第である。

(栗田 則男)

河川愛護月間行事 落合川の河川清掃に参加

協会は常時の活動として局主催のイベント事業に積極的に参加していくと考えて、本年の河川愛護期間中の「落合川の河川清掃」に参加した。

真夏日になった七月二十三日、落合川の不動橋広場に沼尻会長ほか十人が集合した。当日は子供の川遊びなど行事があり、

川の清掃は不動橋上流を地元子供会、下流側をボランティア参加者が分担して行った。水深が六〇センチ程あり参加者は川の中に入り缶、ビン、ごみを分別しながら全員が汗まみれで真っ赤に日焼けして働いた。

昼食はすっかり綺麗になった川をみながら楽しく歓談してとり程よい疲れに満足感に充された一日だった。

次年度は「道の日」「緑の日」などにも参加するよう計画したい。
(金子義明)



史跡探勝路ハイク 初秋の日光を往く



日光三名瀑の一つ「裏見の滝」

栃木路を訪ねる高年三人が「もうひとつの日光」を歩こうと初秋の一日東武日光駅に降りた。

大谷川に架かる含満橋を渡って川沿いでるとそこからは憾満ヶ淵が見えてくる。伝えによれば男体山から噴出した落岩石が大谷川の流れに削られて造られたという。

駅前から、土産物店が建並ぶ市街地をぬけ大谷川に架かる神橋を渡る。ここから日光山社寺の東照宮、輪王寺など拝観コースに入るが、私たちは長坂を登り杉木立ちを西参道へ向かう。参道を下り国道一二〇号線を横切り探勝路を大谷川沿いに行く。

底石まで透きとおる清霊な流れと前方には男体山が聳え、その景観美には心を洗われる。

岸にはずらりと赤い前掛けをかけた地蔵が並び神秘的な雰囲気を感じさせている。大小様々な形をして首がもげたもの、台座だけのものもあり大洪水にあい流出したという。

「並び地蔵」と称されているが「お化け地蔵」ともいわれ、その由来は参拝者がお地蔵様の数を算える度に違うからという。

淵をでて鳴虫山を左に遊歩道を行く。雑木林をぬける道にはブナ、クヌギ、ナラの枝葉が色づきカラス瓜の赤い実がからむ。遊歩道の終点大日橋を渡ると国道に再び出る。

ここから右に折れ県道を行くと溪流沿いの狭い山道に入り登りが続き、足場はあるが息が上がる。

光三名瀑の一つで滝の裏からすぐ目の前に落ちる様が見られ、その景観から名付けられたという。

いまは裏道に入れないが私たちは滝壺の正面から水飛沫を上げて落下する滝の勇壮な眺めを堪能した。

深まる秋に錦繡が彩れば一幅の画となる景観がさらに広がるに違いな。ここまでで滝を下り帰路につく。途中昼食休憩をとり、下りは速く時間もまだ十分あり、国道沿いの清滝バス停から日光市営の「やしおの湯」に寄ることとした。

ゆつくり湯につかり一日の疲れを癒すには格好の場処である。すつきり気分も上々、次回の栃木路やすらぎ探訪ハイクを楽しみに一眠りすればもう春日部駅に着く。

皆さんも、近い、早い、安い東武沿線ハイク行はいかがですか。
(四方 優)

原稿募集

会員の皆様からの原稿を歓迎します
紀行文/エッセイ/写真/スナッチ
グルメ/味の店紹介/スポーツ活動
サークル/俳句/短歌/趣味の活動
投稿/意見/通信/連絡/案内など
何でも結構です！お寄せ下さい。
連絡郵送先 ☎163-0935
東京都新宿区西新宿2-3-1
新宿モノリス8階
東京都駐車場公社内
東京都建設ボランティア協会 事務局
(佐藤・楠根あて)
TEL 03-5381-3370
FAX 03-5381-3355

編集後記

●発刊号の原稿集めに大苦勞●11月には会員の皆様に届くよう編集にも大童●何とか間に合わせた次第●次回からは早めに皆様のご協力を頂きより良い紙面にしたいと思います●よろしくお願ひします●